

おすすめプレゼンテスト【生徒用・課題カード】

Class _____ No. _____ Name _____

 **ゴール:** 2つを比べて、理由つきで「おすすめ」を1分でプレゼンできる

場面 クラスの「どっち派？総選挙」。2つのもの(犬vsねこ、夏vs冬、米vsパン…)から1つを選び、比較の英語で推せ！

構成(4文以上): ①宣言 I recommend ~! ②比較級で理由 ~ is …er than ~. ③もう1つ理由(最上級 or as~as可) ④まとめ So, ~ is the best for me!

準備 テストまでにすること(授業2回)

お題決定→原こう(4~6文)→先生チェック→ペアリハ(聞き手は質問を1つ返す練習も)。

本番 時間: 1人1分+質問1つ / 評価: 4観点×3段階(12点)

達成	相手に伝わったか・目的をはたせたか(いちばん大事！)
正確さ	今回の言語材料(下の「使う形」)が正しく使えたか
流暢さ	止まらずに続けられたか(完ぺきでなくてOK、リカバリーも実力)
態度・やり取り	聞き手を見て・声がとどいたか・あいさつと締めがあったか

✓ 聞き返し(Pardon? / One more time, please.)は減点ではなく加点。本物の会話の技だから、遠りよく使おう。

ねらい このテストは何を・なぜ測るのか

測る力	比較を根拠に自分の選択を説得的に語る力(意見＋根拠の発表)
なぜ必要か	比較級・最上級は「くらべたい気持ち」とセットで定着する。「推し」という当事者性の高い題材で、文法運用と説得の構成(主張→根拠→まとめ)を同時に測る。高校入試の条件英作文(意見文)への口頭版の助走。

評価 ルーブリック(B列＝評価規準「おおむね満足の姿」。採点前に一読してから始める)

達成	A(3点) 理由に説得力があり、聞き手の反応(うなずき・笑い)を引き出した	B(2点)＝評価規準 比較の理由つきでおすすめが伝わった	C(1点) 宣言のみ・理由がない
正確さ	A(3点) 比較級・最上級が正しい(二重比較なし)	B(2点)＝評価規準 誤り(more easierなど)はあるが主張は通じる	C(1点) 比較の形が使えていない
流暢さ	A(3点) 原こうを見ずに自分の言葉で	B(2点)＝評価規準 チラ見しつつ最後まで	C(1点) 棒読み・中断
態度	A(3点) 聞き手への問いかけ・ジェスチャーあり	B(2点)＝評価規準 顔を上げて話せた	C(1点) 下を向いたまま

✓ C→Bの手立て: 条件を1つ減らして再挑戦の機会を(例: メモを見てよい・時間を短く)。再テストはB上限にせず、できた姿をそのまま評価する

運用 当日の流れ(2コマで全員)

1	ルーブリック(このページ)のB列を一読してから開始——「おおむね満足の姿」を採点の物差しとして頭に置く
2	課題カード(1ページ目)の場面と評価観点を全体で確認(2分)。聞き返しは加点、と必ず伝える
3	順番票にしたがって実施(1人1分＋質問1つ)。採点はその場で記録シートに○をつけるだけ
4	待ち時間の生徒には観察メモ(よかった表現を1つ書く)または自習課題を指定
5	全員終了後、よかった例を2～3、名前を挙げてほめて締める(次回への空気づくり)

☆運用のコツ 発表後の「質問1つ」を義務にすると聞き手も本気になります。質問例(Which do you like?/Why?)を黒板に残しておくで質問の質が安定。優勝を決める投票までやると総選挙が完成します。

記録

その場で○をつけるだけ(A=3 B=2 C=1)

名前	達成	正確さ	流暢さ	態度	計	メモ(次への一言)
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	

✓ 印刷して名簿順に並べておくと、テスト中の記入が3秒で済みます。「メモ」は返却時のフィードバックの種——1語でOK。